

(祭) 米山奨学会への寄付増進

目標額／一人当り20,000円(30名の奨学機会確保のため)
以上が後藤ガバナーの強調事項ですが、この中から特にお伝えしたい事柄を述べさせていただきますと思います。

・地区のあり方について

後藤ガバナーは「クラブがあって地区がある＝地区はクラブのためにある」という強い信念のもとクラブのサポートと強化に積極的に取り組み、地区役員・委員の選抜方法など地区の運営・管理の透明化を図り、地区とクラブの信頼関係を構築したいと努力をされています。また、RIや地区の情報はクラブを活性化するとともに信念のもと多くの情報を発信し、また理念や考え方が正しく伝わっているか検証し、正しく伝わってなければそれを正していかなければならないと述べられています。それらの方策のひとつとして、ガバナー・ガバナーエレクト・ガバナーノミニエ、そして2名のパストガバナーからなる長期計画検討委員会が設置され、すでに第1回の委員会が開催されました。また、ガバナー月信の双方向性を試行し、本来ガバナー月信は、ガバナーがクラブの会長・幹事に向けてメッセージを流すためのものですが、今年度は各クラブの奉仕活動の紹介やクラブや会員からのガバナーへの質問コーナーを設ける試みをする予定です。

・会員増強について

この10年の会員数を比較すると、世界レベルでは104%と増えているのに対して日本では75%と大幅に減少しており、2780地区はどうかという約72%と日本の平均をさらに下回ってしまっています。7月1日現在の会員数は、230人を割り込み2264名となっています。これらの要因として経済状況がよくないことや中小企業経営者の高齢化、後継者不足などが考えられますが、増強・拡大のスピードにロータリーの情報教育が追いついていかず、或いは疎かになってしまい、ロータリーを知らない会員が増え、自らの組織に自信と誇りを失いかけているのではないかと疑問を呈されています。理念や本質が理解されていないために、会員の規範が薄れ、会員事業所の不祥事も目立ち、社会の信頼すら損なうと懸念されはじめています。その傾向は平均出席率の推移にも如実に表れており、97-98年が91.69%だったのに対し、07-08年では86.33%と悪くなっています。

私たちロータリアンは、他者に奉仕し、高潔性を推進し、事業と専門職務及び地域社会のリーダー間の親睦を通じて世界理解、親善、平和を推進する使命があることをあらためて認識しなくてはなりません。

今年度の会員増強目標は、ここ数年目標としていた各クラブ純増1名ではなく年率5%増とし、3年間でRIが推奨する地区基準会員数2,700名を目指したい。

・職業奉仕の理念と職業倫理の高揚について

このところ職業倫理にもとる企業の不祥事が相次いでマスコミを賑わしていることは皆様ご高承のとおりです。産地偽装表示などは枚挙にいとまがないほどですが、私が大きな衝撃を受けたのは5年前のJR福知山線の脱線転覆事故です。107名の尊い命が失われ、多くの方が負傷されてしまったのですが、本来私たちは電車に乗るときに安全第一を鉄道会社と暗黙のうちに契約を交わしているからこそ安心して電車に乗ることが出来るのではないのでしょうか？鉄道会社も何よりもまず安全運行を心がけてこそ公共交通機関としての役割を果たせるのではないかと思います。安全第一を無視した効率優先という考えは、全く自分本位の考え方ではないかと思います。これら企業不祥事のほとんどが自分さえ良ければとの結果では

ないでしょうか。長引く不況の中、売上げが思うように上がらない、ましてや収益の確保もままならないとなれば、なりふりかまわず自分のことしか考えられなくなるのは人間の性かもしれませんがそれで良いのでしょうか？郷土の偉人＝二宮尊徳翁は「経済無き道徳は戯言であり、道徳無き経済は犯罪である」と、150年以上も前におっしゃっています。ロータリーができる50年前です。今ほど職業奉仕の概念、職業倫理が求められているときはないのではないかと思いますし、私たちにはそのDNAが流れていると信じたいものです。

ロータリーが他の奉仕団体と明確に違う点は、職業奉仕の理念を持っているという点ではないでしょうか？後藤ガバナーは、今あらためてロータリーの基本である職業奉仕の理念を認識しなければならないとの考えから、またその概念の重要性が増しているとの思いから職業奉仕委員会を地区組織の中に復活されました。

・ロータリー財団について

2013年からの「未来の夢計画」実施に伴いR財団補助金が変わりますので、それに備えて未来の夢計画準備委員会も新設されました。みなさまからいただいたR財団への寄付は、3年後にDDFとして地区に戻り、GSE・財団奨学生・財団補助金などとして使用されています。従いまして、今年度の寄付は2013年の運用となり、まさに「未来の夢計画」のシステムが適用されます。その概要だけお話をさせていただきます。

今年度の財団寄付目標額 180ドル以上／人

+ベネファクター1名

加えて、ゲイツ財団との協働のポリオ撲滅資金(ゲイツ財団1億ドル+2億5500万ドル=3億5500万ドル、ロータリー2億ドル)への寄付として一人当り2,000円をお願い申し上げます。

以上が、レイ・クリングスミスRI会長並びに後藤ガバナーの基本方針です。

最後に今年度の主なイベントを紹介すると、RI国際大会は来年5月21日からニューオーリンズで、また地区大会は10月16～17日に大磯プリンスホテルを会場に開催されます。また、地区大会記念親睦ゴルフコンペが9月28日(火)に小田急藤沢ゴルフクラブにおいて開催されています。

第9グループの事業としては、来年1月25日(火)にIMの開催を予定いたしております。企画に関しましては、前年同様各クラブから実行委員を1名出していただいて実行委員会を立ち上げ、金山実行委員長のもと準備をいたしております。また、インターネットを活用してできるだけ多くの地区の情報や第9グループ内の他クラブの活動をみなさまに提供しよう努力いたしております。

「地区は、クラブの活性化のためにある。」という後藤ガバナーの基本理念を少しでも具現化できるよう努力してまいりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

1週間前に志澤君がここで「老いていく生き方」という映画のPRをしておりましたが、私も前々からその映画に関心がありましたので見てきました。その中で酒蔵も出てくるのですが、その映画の中で酒蔵の主人が「発酵」と「腐敗」というのは科学的には同じプロセスということですが、人間に有益なものを「発酵」と言って、害のあるものを「腐敗」というセリフがありました。私達はロータリーに入っているのですから、社会に対して発酵という存在になる、有益な存在になるような人間で皆様と一緒に行動していきたいと考えておりますので、まだ年度半ばではありますが、皆様にお力添えをしていただく事も多々あると思います。是非その辺も含めお願いしたいと思います。

次回10月12日は「ガバナー公式訪問」です。